



直方の夏の風物詩「のおがた夏まつり」と今年で4回目を迎える「MAKE A MONOGATARI」。
2つの花火を通して直方の魅力を様々な人に知ってもらうため、Instagramでフォトコンテストを開催し、11月29日に開催した審査会で3人の受賞が決定しました。応募作品は、壮さが伝わるダイナミックな作品から、花火のわくわく感が伝わるカラフルな作品など、様々な作品が寄せられました。たくさんのご応募ありがとうございました。
【応募数】#ノオガタハナビ:79件(45人)、#メイクアモノガタリ:150件(50人)

1位(最優秀賞)



【氏名】リャーちゃんママさま(ペンネーム)

【Instagramアカウント名】@rirakkie

【ハッシュタグ】#ノオガタハナビ

【受賞者コメント】数ある素敵な写真の中から受賞させて頂きありがとうございます。娘にとってはまだ人生2回目の夏。直方花火を見に行った日のパパと娘の嬉しそうな姿をファインダー越しで見てもとても幸せな気持ちになりながらシャッターを切りました。私にとっては大切なこの一枚を選んで頂けた事、とても嬉しく思います。



2位(優秀賞)



【氏名】木嶋 直也 さま

【Instagramアカウント名】@naoooo.canon

【ハッシュタグ】#ノオガタハナビ

【受賞者コメント】直方市の花火は迫力があり、個人的に一番好きな花火大会で、そのコンテストで入賞できた事、大変うれしく思います。アンバサダーとして、引き続き1年間直方市を盛り上げられるよう頑張ります!



3位(特別賞)



【氏名】藤春 恭紀さま

【Instagramアカウント名】@yasu3835

【ハッシュタグ】#メイクアモノガタリ

【受賞者コメント】花火撮影はいろんな所で撮ってますが家から比較的近い所で、こんな素晴らしい花火が撮れておまけに入賞までさせて貰えて感謝します。またアンバサダー就任に際しすこしでも魅力ある場所を撮って紹介出来たらと思ってます。



受賞された3人は、のおがたPRアンバサダーとして、直方市の魅力やまちの情報をSNS等で発信していきます。
アンバサダーの皆さんの投稿は、旬な観光情報を発信する直方市公式Instagram「コロミチルのおがた」でもシェアしていきます。
右記の二次元コードを読み取ってフォローをお願いします♪



まちの話 題



直方市小3社会科見学 「石炭と鉄道のまち直方」 5000人達成



昨年11月2日、NPO法人汽車倶楽部主催の「石炭と鉄道のまち直方」が11年の歳

月をかけて見学児童数5000人を達成しました。社会科見学は石炭記念館の見学から始まり、汽車倶楽部で炭坑により采えた直方の歴史をパネルで振り返り、最後に静態保存された蒸気機関車を見学しました。

車庫のシャッターが開き、実際に蒸気機関車を目にする、小学生達は歓声を上げていました。汽笛を鳴らすパフォーマンスマスもあるなど迫力満点。参加した小学生は、「汽笛の音が大きくてとてもびっくりしました。楽しかったです」と話しました。同法人の江口一紀理事長は「ようやく、5000人を迎えることができました。少しでも多くの人に知ってもらって直方をこれからも盛り上げていきたいです」と意気込みを語りました。

市民福祉や 農業の発展に尽力 直方市表彰



昨年11月13日、直方市市政功労賞の表彰式を市庁舎で行いました。

これは、市の公益および自治の発展に功績があり、市の名を高めることに寄与した人に贈られるものです。

表彰されたのは、市議会議員として3期12年にわたり、市の発展に尽力した佐藤信勝さんと、市農業委員として8期24年、荒廃農地解消対策に取り組んだ故静岡俊治さん(表彰式は妻の香代子さんが出席)。二人には、大塚市長から感謝の気持ちを込め、表彰状が贈られました。

「私の地元応援募金」 寄付金贈呈式



昨年11月15日、明治安田生命保険相互会社からの寄付金の贈呈式を行いました。令和2年度に本市と締結した「健康

増進に関する連携協定」に基づいて行っているもので、明治安田生命グループの社員が「地元やゆかりのある土地」として本市を選んで募金し、会社からの拠出金を上乗せして寄附しています。今年は合計81万9500円。寄附金は、市民の健康増進を目的に、市の豊かな自然や名所をめぐるウォーキングイベントの実施に活用される予定です。

同社北九州支社直方営業所戸倉勇城営業所長は「少しでも直方市の課題解決に貢献できたらと思っています。今後ともよろしく願います」と語りました。大塚市長は「市民の健康増進に役立させて頂きます。ありがとうございました」と感謝を述べました。

市民ボランティアによる 球根植え



昨年11月16日〜12月3日のうち計12日間、(社)直方市観光物産振興協会主催で、のおがたちユースリッパフェア2024に向けた球根植えを開催しました。

毎年、市内外から多くの人が足を運ぶ直方の春の風物詩であるチューリップフェアを盛り上げようと、約90の市民ボランティア団体が参加しました。11月29日に参加した文化青少年協会に所属する小島啓さんは「作業は大変ですけど、春にきれいに咲いて、たくさんの方が足を運んでくれることを願って、球根を植えました。開花が楽しみです」と来春の河川敷に思いを馳せていました。